

---

# 蒼海の黒狼

八森ケン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

蒼海の黒狼

### 【Nコード】

N3189F

### 【作者名】

八森ケン

### 【あらすじ】

どこまでも続く蒼海、その蒼海に名を轟かせた少年とその仲間の物語。

## プロローグ

海面を滑るように航走<sup>はし</sup>る船がある。

大きさは30メートルほどで、船体は漆黒に塗装されていた。

そんな船の甲板に1つの人影があつた。

歳は18、19ほど、肌はよく日に焼けていて、白い半袖の服の上に黒のジャケットをはおり、黒のズボンをはいていた。容姿はまだ幼さを残しているが整っていて、船体と同じ漆黒の髪に黒い瞳をした少年だ。その瞳は、どこまでも続く蒼海を見ていた。

「何をしているんだ、おまえ」

不意に少年に声をかけ、近づいてくる人影がある。

肩あたりまで伸ばした薄い茶髪で眼鏡をかけた碧眼の少年より少し年上の感じのする青年だ。容姿は少年に負けず整っている。しかし格好は日が高いせいかかなり暑いというのに、緑のロングコートをはおったかなり変わった格好だ。

「見てわからないか、オルカ」

「俺の目が節穴なのか、海を眺めているようにしか見えないのだが」

「……そのとおりだ」

少年に『オルカ』と呼ばれた青年はため息とともに額を押さえた。

「……こんなところで海を眺めているくらい暇なら、少しはこちらの仕事を手伝ってほしいものだが」

「……ところで俺に何かようでもあるんじゃないか」

「む、うまく話しを変えたな……まあいい」

「ふう」とオルカは一息ついてからすつと姿勢を直し少年に向かって敬礼をした。

「艦長、右舷後方8時の方向に艦影2を確認。うち一隻は海賊ジंक一味と思われます。どうやらもう片方の船を襲っているようすがいかがいいたしますか」

今度は少年がため息とともに額を押さえた。

しばらくその状態で、ぶつぶつとなにかいったあと、少年はゆっくりと口をひらいた。

「航路を右舷8時の方向に変更、乗組員全員は戦う準備を。戦法はいつもどおり」

「了解しました。」

そう言うと、オルカは駆け出した。その背を見送ってから、オルカの報告にあった場所を見てみた。

確かに2隻の船が寄り添うようにしてあった。しかし、片方の船の帆には海賊旗の証である、髑髏の絵が大きく描かれていた。

「さて、間に合うかな」

そんな少年……アルガ・ローレライのつぶやきとともに、船はゆっくりと進路を変え始めた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3189f/>

---

蒼海の黒狼

2010年12月3日06時07分発行